【資　　料】

岡山県における感染症の患者発生状況について（2023年）

Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases in Okayama Prefecture（2023）

石故明衣子，木下浩行，木田浩司，妹尾安裕
ISHIKO Meiko, KINOSHITA Hiroyuki, KIDA Kouji, SENOO Yasuhiro

［キーワード：感染症，サーベイランス，全数把握感染症，定点把握感染症］
［Key words：Infectious disease, Epidemiological surveillance, Notifiable disease surveillance, Sentinel surveillance］

1　感染症発生動向調査

1.1　調査方法

感染症発生動向調査事業実施要綱（平成11年3月19日付け健医発第458号。以下「要綱」という。）に基づき，岡山県内の各関係機関から報告された患者情報は感染症サーベイランスシステム（NESID：National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease）又は新型コロナウイルス感染症等情報把握・管理支援システム（HER-SYS：Health center Real-time Information-sharing System on COVID-19）により，国立感染症研究所感染症疫学センターへ報告され，都道府県の情報が集計されている。2023 年に集計された全国の情報と比較しつつ，県内の発生状況を解析した。なお，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況は別稿にまとめる。

1.2　届出対象感染症

対象となる感染症は，「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。）により定められており，一類～五類感染症及び新型インフルエンザ等感染症に分類されている。また，一類～四類感染症及び新型インフルエンザ等感染症は全数把握対象に，五類感染症は全数把握対象及び定点把握対象にそれぞれ区分されている（表1）。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は，2023年当初，新型インフルエンザ等感染症に位置づけられていたが，同年5月8日から定点把握対象の五類感染症に変更された。

1.2.1　全数把握感染症

全数把握感染症とは，発生数が希少又は周囲への感染拡大防止を図るために全ての患者の把握が必要な感染症で，医師には，該当する感染症の診断時に最寄りの保健所への届出が義務づけられている。

1.2.2　定点把握感染症

定点把握感染症とは，発生動向の把握が必要な感染症のうち，患者数が多数で，その全てを把握する必要がないもので，指定された医療機関（以下「定点医療機関」という。）は，発生状況を週単位又は月単位で保健所に届け出ることになっている。定点医療機関は，要綱の基準に基づき選定されるが，岡山県の場合，小児科定点54，内科定点30，眼科定点12，性感染症定点17，基幹定点5を指定し，このうち小児科定点と内科定点をあわせてインフルエンザ定点（2023年5月8日以降は「インフルエンザ／COVID-19定点」へ変更）84としている。

定点把握感染症については，全国や過去のデータの比較においては，全ての定点医療機関から報告される患者数を定点医療機関数で割った値（以下「定点あたり報告数」という。）又は年間の患者報告数を定点医療機関数で割った値（以下「定点あたり累積報告数」という。）を用いる。

1.3　調査期間

全数把握感染症（表1-1）及び月報告の定点把握感染症（表1-2-②）の調査期間は，2023年1月1日～12月31日，週報告の定点把握感染症（表1-2-①）については，2023年第1週～第52週（2023年1月2日～2023年12月31日）とした。なお，インフルエンザ及び感染性胃腸炎は，流行時期にあわせて，グラフ及び本文の内容を第36週～翌年第35週（2022年9月5日～2023年9月3日）とした。いずれの感染症も診断日を基準としており，「感染原因・経路」については，「推定」も含むものとした。

2　結果

2.1　全数把握感染症の発生状況（表2，3）

2.1.1　一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

2.1.2　二類感染症

二類感染症は，結核の届出があった。

ⅰ）結核

結核は211例の届出があった。2019年までは300例以上の届出が続いていたが，2020年は252例，2021年は250例，2022年は246例となり，2023年は211例と更に減少した（図1）。病型は，患者が135例，無症状病原体保有者が75例，疑似症患者が1例であり，届出のうち12例が医療・介護関係者（看護師，介護職など）であった。性別は男性が116例，女性が95例で，年齢階級別（図2）では60歳以上の高齢者が67.8 %を占めた。また，前年より減少したものの，20歳代での届出が多く見られた（26例，12.3 %）。なお，2023年の日本の結核罹患率（人口10万対）は8.1であり，減少傾向が継続しているが，2020年以降の減少については，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響も考えられている。そのような中，近年全国的に増加傾向にあった20歳代の若年層での新登録患者数は前年より更に増加しており，（2022年は10,235例中777例（7.6 %），2023年は10,096例中1,042例（10.3 %）），特に，同年代における外国生まれの患者の発生（2022年，2023年の新登録患者における割合はそれぞれ77.5 %，84.8 %）が注目される[1)]。

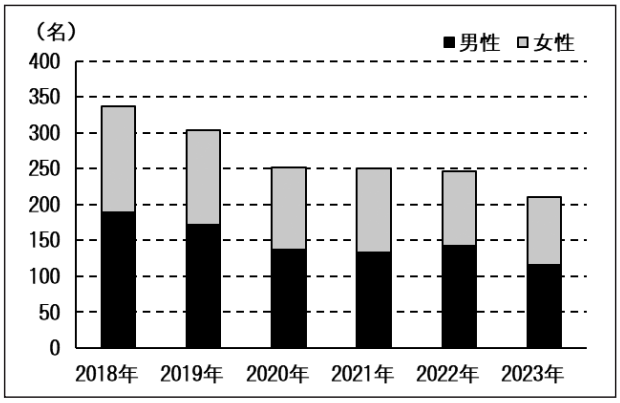

図１　結核　年次別発生状況

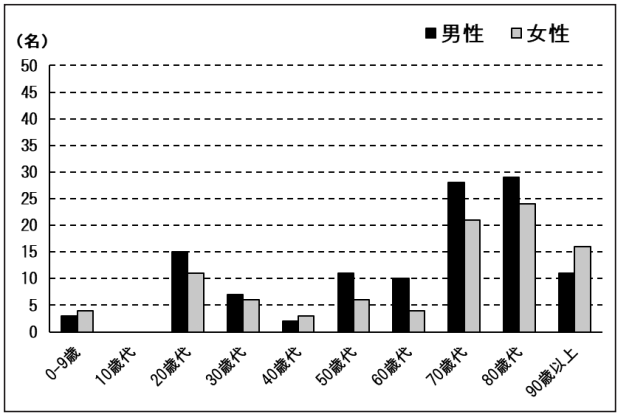

図2　結核　年齢階級別発生状況

2.1.3　三類感染症

三類感染症は，細菌性赤痢，腸管出血性大腸菌感染症及び腸チフスの届出があった。

ⅰ）細菌性赤痢

細菌性赤痢は1例の届出があり，40歳代の男性であった。推定感染地域は，国外（インドネシア）で，感染原因･経路は経口感染（氷，生サラダ，カットフルーツ等）と推定された。

ⅱ）腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は104例の届出があり，前年（67例）から増加し，過去5年間で最も多くなった（図3）。病型は，患者が77例，無症状病原体保有者が27例であった。性別は男性が48例，女性が56例で，年齢階級別では，20歳代（22例），10歳代（17例），40歳代（15例）の順に多かった。月別発生状況は8月（24例），6月（16例），7月（14例）の順に多くなっており，夏～秋に届出が多かった（図4）。なお，届出の多かった6月～8月は2施設で集団事例が発生した。血清群別の内訳は，図5のとおりO157，O26，O103の順に多く，「その他」の内訳はO111及びO146が各2例，O5，O8，O63，O128，O145，O148及びO159が各1 例であった（重複あり）。

感染経路は経口感染が44例，接触感染が19例，不明が41例であり，経口感染の27例が「焼肉」を喫食していた。

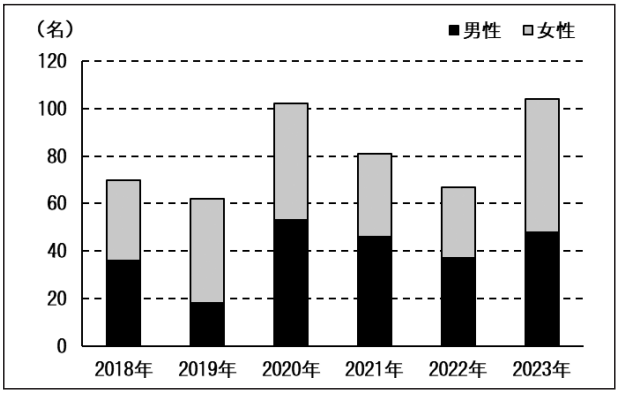

図３　腸管出血性大腸菌感染症　年次別発生状況

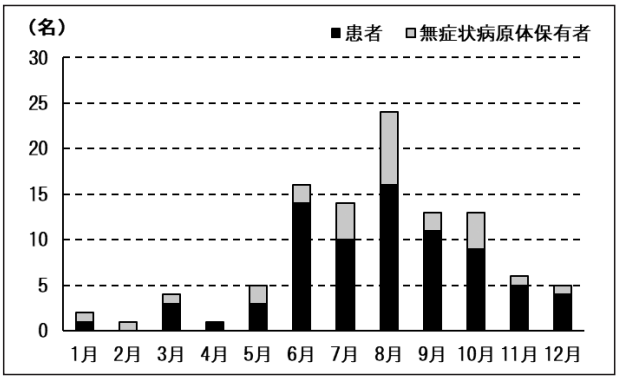

図4　腸管出血性大腸菌感染症　月別発生状況

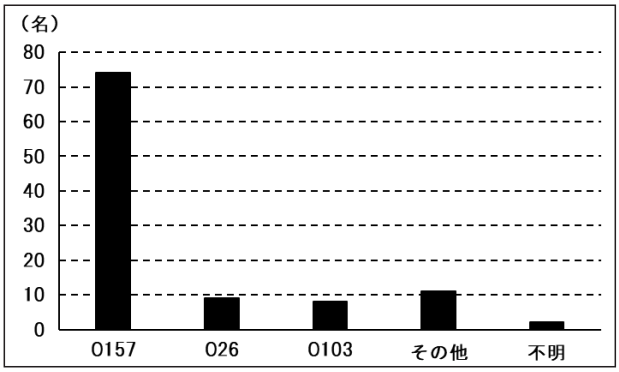

図５　腸管出血性大腸菌感染症　O血清群発生状況

iii）腸チフス

腸チフスは1例の届出があり，20歳代の女性であった。推定感染地域は，国外（ミャンマー）で，感染経路は経口感染と推定された。

2.1.4　四類感染症

四類感染症は，E型肝炎，エムポックス，オウム病，重症熱性血小板減少症候群，つつが虫病，日本紅斑熱及びレジオネラ症の届出があった。

ⅰ）E型肝炎

E型肝炎は2例の届出があり，50歳代の男性及び70歳代の女性が各1例であった。推定感染地域は国内（県内1例，不明1例）で，感染経路は経口感染が1例，不明が1例であった。

ⅱ）エムポックス（旧　サル痘（2023年5月26日付けで名称変更））

エムポックスは県内初となる1例の届出があり，30歳代の男性であった。

iii）オウム病

オウム病は1例の届出があり，40歳代の男性であった。推定感染地域は県内で，動物からの感染を疑う症例であった。

iv）重症熱性血小板減少症候群

重症熱性血小板減少症候群は前年と同数となる4例の届出があり，感染症法で全数把握疾患となった2013年以降で，最多である2020年の7例，2021年の6例に次ぐ届出数であった（図6）。2013年からの累計報告数は31例となった。4～6月及び10月に届出があり，性別は男性が2例，女性が2例で，年齢階級別では80歳代が2例，30歳代及び70歳代が各1例であった。推定感染地域は県内が3例，不明が1例で，感染原因・経路として，3例は動物・蚊・昆虫等からの感染が疑われ（刺し口ありが1例，動物からの感染が疑われる例が1例），1例は不明であった。

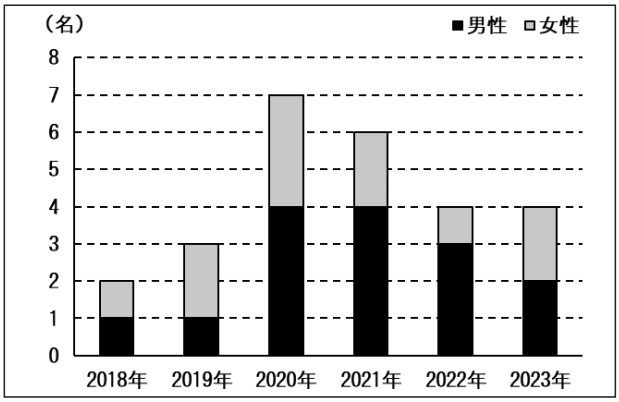

図６　重症熱性血小板減少症候群　年次別発生状況

v）つつが虫病

つつが虫病は前年と同数の4例の届出があった。4月（1例），11月（2例）及び12月（1例）に届出があり，性別は全て男性で，年齢階級別では80歳代が2例，40歳代及び70歳代が各1例であった。推定感染地域は全て県内で，感染原因・経路として，全て動物・蚊・昆虫等からの感染が疑われた（うち野外での活動歴ありが2例，刺し口ありが2例（重複あり））。

vi）日本紅斑熱

日本紅斑熱は13例の届出があり，前年（9例）から増加した。県内初の届出があった2009年以降で最多の届出数となった（図7）。2009 年からの累計報告数は76例となった。8月（6例），10月（4例），4月，6月及び9月（各1例）に届出があり（図8），性別は男性が7例，女

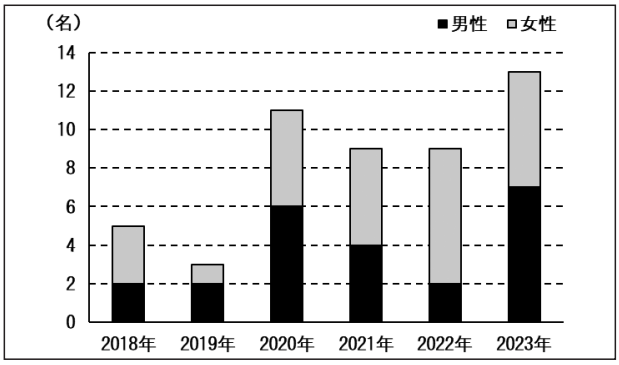

図７　日本紅斑熱　年次別発生状況

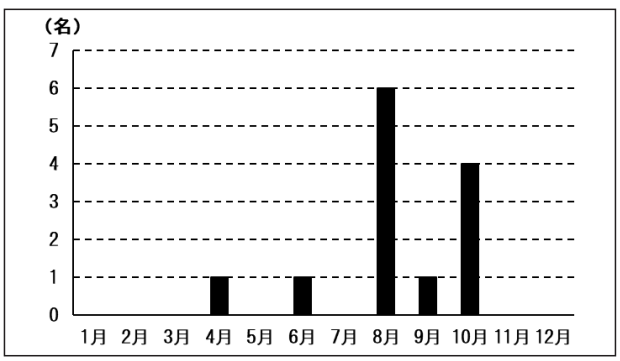

図８　日本紅斑熱　月別発生状況

性が6例で，年齢階級別では70歳代が6例，60歳代及び80歳代が各2例，30歳代，50歳代及び90歳代が各1例であった。推定感染地域は，国内が12例（県内10例，県外2例），不明が1例であった。また，刺し口が8例で確認された。

vii）レジオネラ症

レジオネラ症は50例の届出があった（図9）。病型は肺炎型が44例，ポンティアック熱型が4例，無症状病原体保有者が2例であった。性別は男性が37例，女性が13例で，年齢階級別では80歳代（14例），60歳代及び70歳代（各11例）の順に多かった（図10）。感染原因・経路は，水系感染が7例，じんあい感染が6例，その他が7例，不明が35例であった（重複あり）。水系感染のうち1例は，入浴施設を利用していた。また，じんあい感染のうち1例は，草ぬき等の野外活動歴があった。

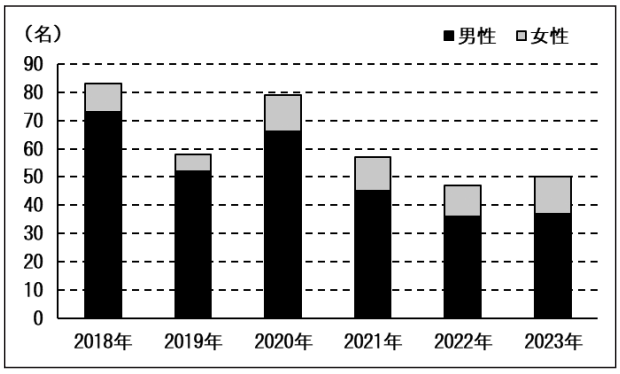

図９　レジオネラ症　年次別発生状況

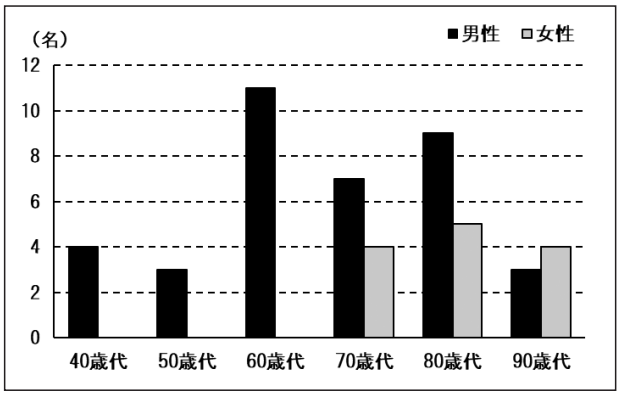

図１０　レジオネラ症　年齢階級別発生状況

2.1.5　五類感染症（全数把握対象）

五類感染症は，17感染症の届出があった。

ｉ）アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は11例の届出があり，前年（10例）から増加した（図11）。病型は全て腸管アメーバ症であった。性別は男性が10例，女性が1例で，年齢階級別では50歳代（4例），40歳代及び60歳代（各3例），30歳代（1例）の順に多く，患者は全て30歳以上の成人であった（図12）。推定感染地域は国内が7例（県内5例，不明2例），不明が4例であった。感染経路は，性的接触が2例，経口感染が1例，不明が8例であった。

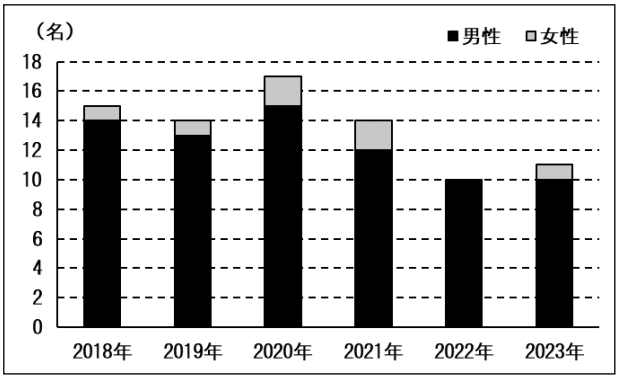

図１１　アメーバ赤痢　年次別発生状況

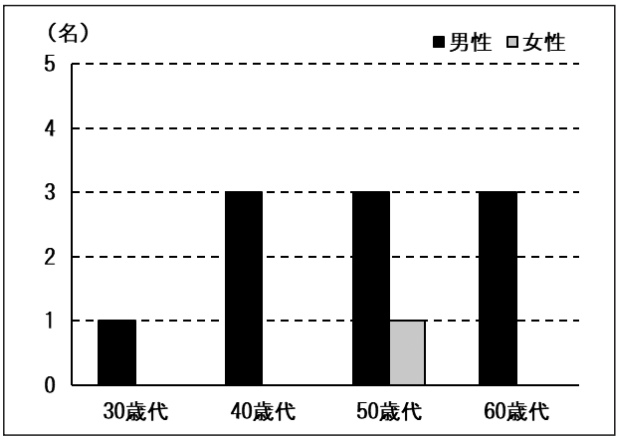

図１２　アメーバ赤痢　年齢階級別発生状況

ⅱ）ウイルス性肝炎（Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く。）

ウイルス性肝炎は4例の届出があり，前年（1例）から増加した(図13)。性別は男性が3例，女性が1例であった。年齢階級別では10歳代，40歳代，50歳代及び70歳代が各1例であった。推定感染地域は国内が3例（県内2例，県外1例），不明が1例で，感染経路は性的接触が2例，不明が2例であった。

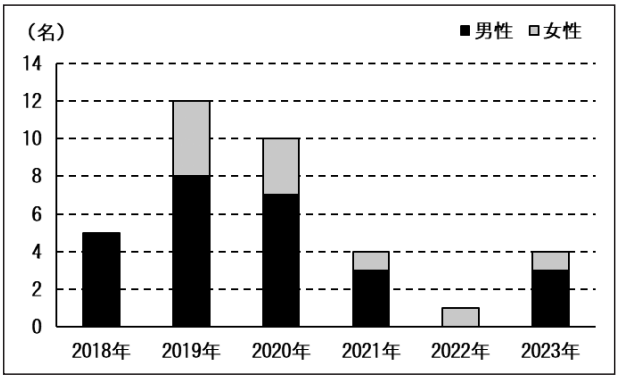

図１３　ウイルス性肝炎　年次別発生状況

iii）カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（旧　カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（2023年5月26日付けで名称変更））

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は28例の届出があり，前年（23例）から増加した（図14）。性別は男性が18例，女性が10例で，年齢階級別（図15）では70歳代（11例），80歳代（7例），60歳代（4例）の順に多く，60歳以上で78.6%を占めていた。感染原因・経路は，以前からの保菌（11例，うち膀胱・尿路（4例）が最多），手術部位感染及び医療器具関連感染（各4例）の順に多かった。検出された菌種は，*Klebsiella aerogenes*（14例），*Enterobacter cloacae* 及び*Klebsiella pneumoniae*（各4例），*Escherichia coli*（2例），*Enterobacter asburiae*，*Enterobacter cancerogenus*，*Enterobacter sp*，及び*Klebsiella ozaenae*（各1例）の順に多かった。

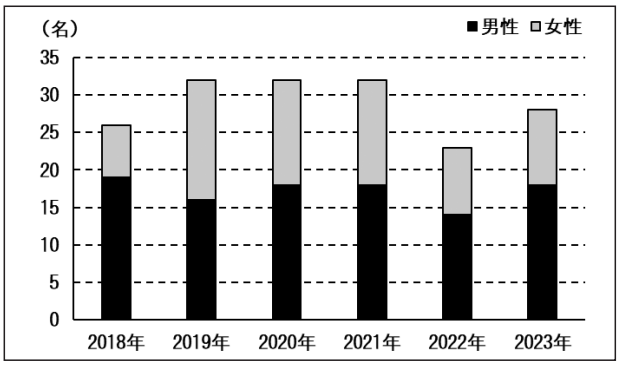

図１４　カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
年次別発生状況

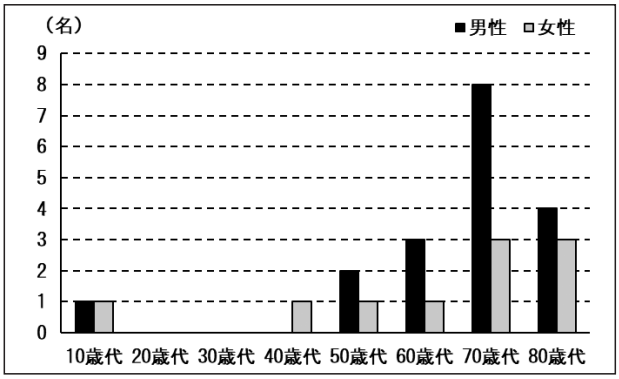

図１５　カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
年齢階級別発生状況

iv）急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）

急性弛緩性麻痺は1例の届出があり，10歳未満の男性であった。病原体は不明であった。

v）急性脳炎（ウエストナイル脳炎，西部ウマ脳炎，ダニ媒介脳炎，東部ウマ脳炎，日本脳炎，ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

急性脳炎は11例の届出があり，前年（10例）から増加した（図16）。病原体の検出は，インフルエンザウイルス（3例），アデノウイルス及びエンテロウイルス（各2例），ヒトヘルペスウイルス6及び「溶血性レンサ球菌又は黄色ブドウ球菌」（各1例），病原体不明（2例）であった。性別は男性が7例，女性が4例で，年齢階級別では10歳未満が10例，10歳代が1例であった。

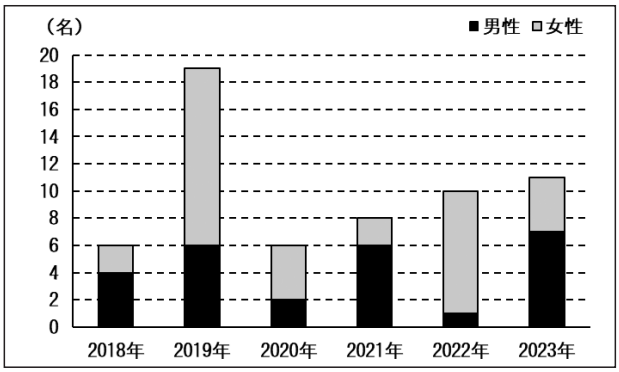

図１６　急性脳炎　年次別発生状況

vi）劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は10例の届出があり，前年（5例）から増加した（図17）。12月（3例），3月及び11月（2例），1月，8月及び10月（各1例）に届出があり，秋以降から増加した。性別は男性が5例，女性が5例で，年齢階級別では70歳代が4例，60歳代及び90歳代が各2例，30歳代及び50歳代が各1例であった。感染経路は，創傷感染が5例，飛沫感染が1例，不明が4例であった。

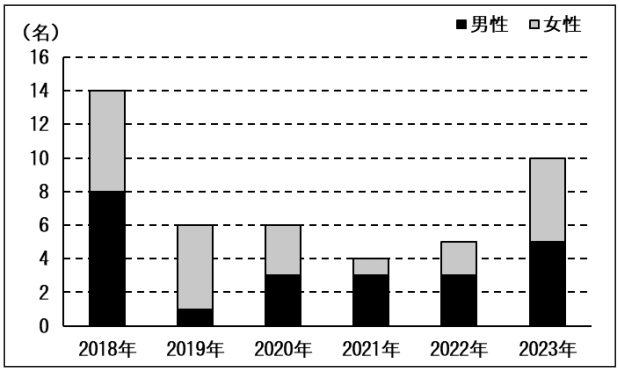

図１７　劇症型溶血性レンサ球菌感染症　年次別発生状況

vii）後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は5例の届出があり，前年（6例）から減少した（図18）。性別は男性が3例，女性が2例で，年齢階級別では20歳代が2例，30歳代，40歳代及び60歳代が各1例であった（図19）。病型はAIDSが 2例，無症候性キャリアが3例であった。推定感染地域は，国内が3例（県内2例，県外1例），不明が2例であった。感染経路は性的接触が4例（異性間3例，同性間1例），不明が1例であった。後天性免疫不全症候群の届出に係

る記載項目の一つであるCD4値は200/mm^{3}以下になるとニューモシスチス肺炎等の日和見感染症を発症しやすくなる[2]が，2023年は届出時点でCD4値が200/mm^{3}以下であった進行した症例が3例あり，うち2例はCD4値が50/mm^{3}以下の免疫機能が極めて低下した状況で診断され，病型がAIDSであった。

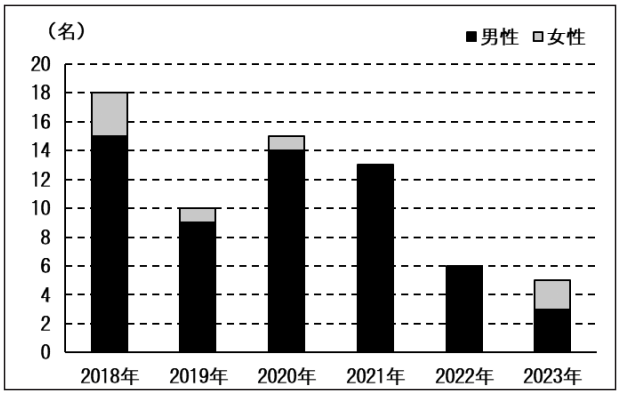

図１８　後天性免疫不全症候群　年次別発生状況

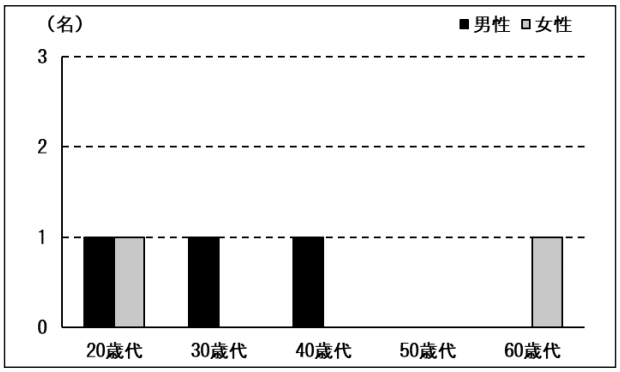

図１９　後天性免疫不全症候群　年齢階級別発生状況

viii）ジアルジア症

ジアルジア症は1例の届出があり，30歳代の男性であった。推定感染地域は国外（インド）で，感染経路は経口感染と推定された。

ix）侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症は10例の届出があり，前年（1例）から増加し，感染症法で全数把握疾患となった2013年以降で最多の届出数となった。性別は男性が3例，女性が7例で，年齢階級別では70歳代が3例，10歳未満，10歳代，30歳代，40歳代，60歳代，80歳代及び90歳代が各1例であった。感染経路は飛沫感染が2例，不明が8例であった。

x）侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は35例の届出があり，前年（22例）から増加した（図20）。性別は男性が19例，女性が16例で，年齢階級別では，70歳代及び80歳代（各8例），10歳未満（7例）の順に多かった（図21）。ワクチン接種歴別でみると接種歴ありが14例，接種歴なしが16例，不明が5例であった。

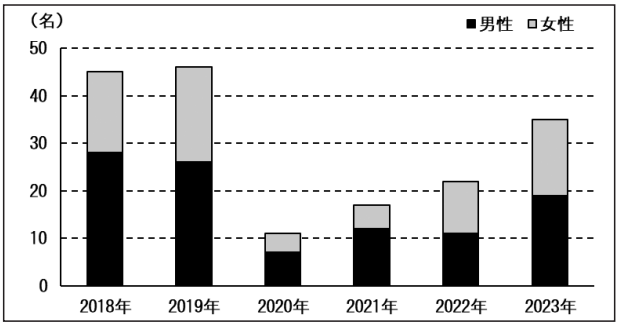

図２０　侵襲性肺炎球菌感染症　年次別発生状況

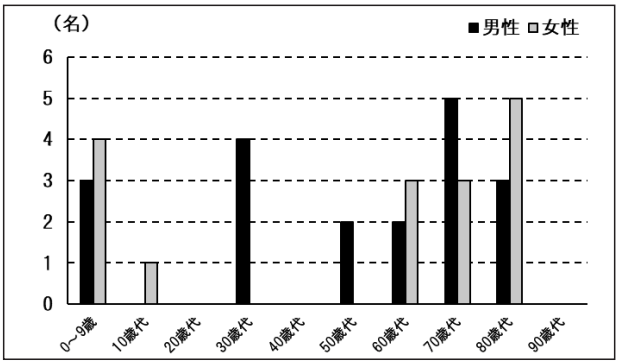

図２１　侵襲性肺炎球菌感染症　年齢階級別発生状況

xi）水痘（入院例に限る。）

水痘（入院例に限る。）は5例の届出があり，前年（4例）から増加した。性別は男性が1例，女性が4例で，年齢階級別では70歳代及び80歳代が各2例，10歳代が1例であった。感染原因・経路は，飛沫・飛沫核感染が1例，免疫力の低下が疑われるものが1例，不明が3例であった。

xii）梅毒

梅毒は316例の届出があり，感染症法が施行された1999年以降で最多の届出数となった（図22）。病型は早期顕症梅毒Ⅰ期が177例，早期顕症梅毒Ⅱ期が94例，晩期顕症梅毒が1例，無症状病原体保有者が44例であった。性別は男性が228例，女性が88例で，年齢階級別では，男性は20歳代（59例），40歳代（52例），30歳代（48例）の順，女性は20歳代（60例），30歳代（10例），40歳代（8

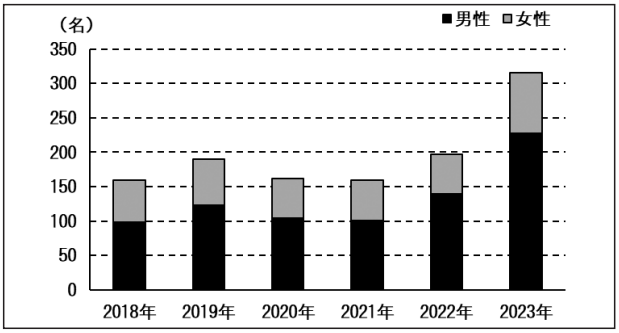

図２２　梅毒　年次別発生状況

例）の順に多かった（図23）。特に女性は10歳代及び20歳代で女性全体の75.0 %を占めており，若年女性の届出数が多い状況が継続している（図24）。推定感染地域は国内が289例（県内229例，県外55例，不明7例（重複あり）），不明が27例であった。感染経路は，性的接触が303例（異性間275例，同性間3例，詳細不明25例），不明が13例であった。

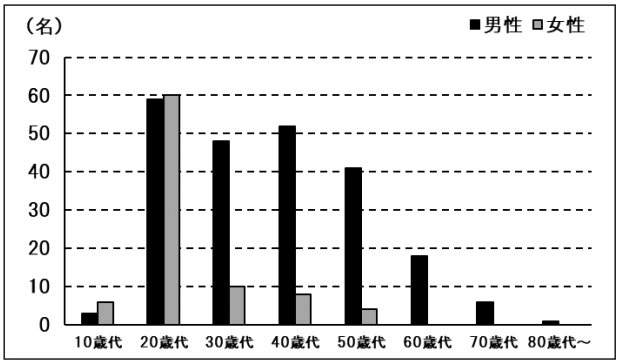

図２３　梅毒　年齢階級別発生状況

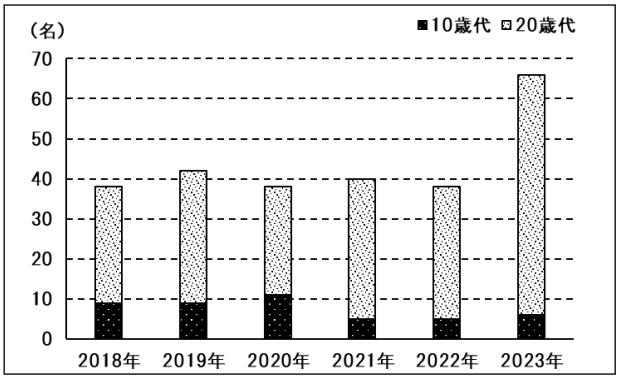

図２４　梅毒　年次別（10歳代及び20歳代女性）

梅毒の届出に係る記載項目のうち，「性風俗産業の従事歴・利用歴の有無」については，2023年は，男性感染者（228例）のうち142例（62.3 %）が直近6か月以内の性風俗産業の利用歴があり，年齢階級別では，40歳代（38 例）の利用が最も多く，次いで30歳代（30 例），50歳代（29例）の順で多かった（図25）。また，女性感染者（88例）のうち39例（44.3 %）が直近6か月以内の性風俗産業の従事歴があり，年齢階級別では，20歳代（25例，64.1 %）が最も多かった（図26）。2022年と比較すると，女性の感染者数及び性風俗産業従事歴の割合は共に増加している（2022年は性風俗の従事割合が37.9 %）。「HIV感染症合併の有無」については，2023年は，男性感染者のうち3例でHIV感染症合併があり，30歳代，40歳代及び50歳代が各1例であった。女性感染者では，HIV感染症の合併はなかった。「過去の治療歴の有無」については，男性が8例（30歳代及び50歳代が各2例，40歳代，60歳代，70歳代及び80歳代が各1例，1年以上前が7例，不明が1例），女性が2例（全て20歳代，1年以内が1例，1年以上前が1例）で治療歴があった。「妊娠の有無」については，2023年は6例が妊娠しており，妊娠7週から21週で感染が判明していた。年齢階級は20歳代及び30歳代であった。このうち，性風俗産業従事歴については，5例が「なし」，1例が「不明」であった。

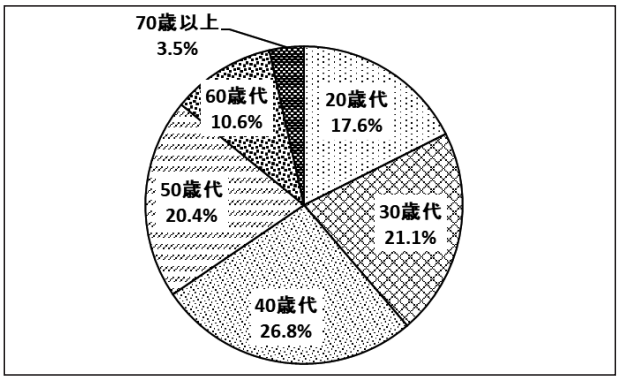

図２５　梅毒　性風俗産業利用歴有（2023年，男性）

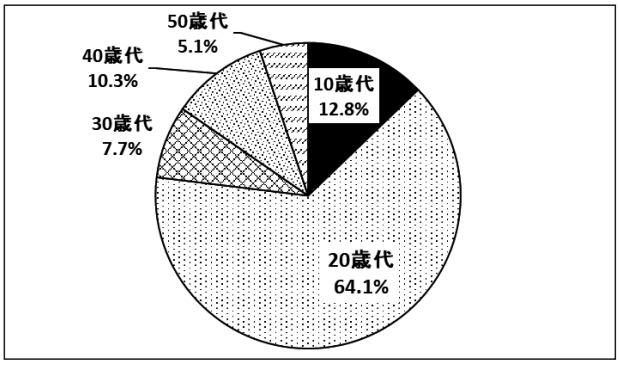

図２６　梅毒　性風俗産業従事歴有（2023年，女性）

xiii）播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は2例の届出があった。性別は男性が1例，女性が1例で，年齢階級別では70歳代及び90歳代が各1例であった。感染原因は全て免疫不全であり，推定感染地域は国内が1例（県内），不明が1例であった。

xiv）破傷風

破傷風は，4例の届出があった。性別は男性が2例，女性が2例で，年齢階級別では70歳代が2例，80歳代及び90歳代が各1例であった。感染原因・経路は創傷感染が3例，針等の鋭利なものの刺入による感染が 1例であった。

xv）バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は，2例の届出があった。全て80歳代の男性で，感染原因・経路は不明であった。

xvi）百日咳

百日咳は，22例の届出があり，前年（18例）から増加した。2018年（187例），2019年（428例）と増加傾向であったが，2020年（92例）から減少に転じており，2021年（15例），2022年（18例）に引き続き少ない発生状況であった。性別は男性が10例，女性が12例で，月別の発生状況に明確な差は見られなかった。

xvii）薬剤耐性アシネトバクター感染症

薬剤耐性アシネトバクター感染症は，2例の届出があった。性別は男性が1例，女性が1例で，年齢階級別では60歳代及び100歳代が各1例であった。感染原因・経路は以前からの保菌が1例，不明が1例であり，推定感染地域は国内が1例（県内），不明が1例であった。

2.2　定点把握感染症（五類感染症）の届出状況

2.2.1　小児科・内科定点における週報告の感染症（表4）

小児科・内科定点における週報告の感染症のうち，主な感染症については，以下のとおりである。

ｉ）インフルエンザ（2022/23年シーズン流行のまとめ）（図27）

2022/23年シーズン（2022/9/5～2023/9/3）の岡山県の患者報告数は，10,651名であった。前2シーズン（2020/21年シーズン及び2021/22年シーズン）は注意報発令がなく，3年ぶりの流行となったが，過去10シーズンでは3番目に少ない報告数であった。2022年第36週（9/5～9/11）にシーズン初めての患者が報告され，2022年第52週（12/26～1/1）には定点あたり報告数が1.35人となり，過去10シーズンと比較すると6番目の早さで流行期に入った。その後，流行は拡大したが，報告数は2023年第10週（3/6～3/12）の1,037名（定点あたり12.35人）をピークに減少に転じ，以降は警報発令基準の30.00人を超過することなく漸減した。注意報が発令されたにもかかわらず警報発令基準に至らなかったのは，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行が開始した2019/20年シーズン以来となった（その前は2010/11年シーズン）。その後，第21週（5/22～5/28）には0.87人，第22週（5/29～6/4）には0.57人と，2週連続して定点あたり1.00人を下回ったため，県内に発令していた「インフルエンザ注意報」を6月8日をもって解除した。全国では，2022年第51週（12/19～12/25）に定点あたり1.24人となり，全国的な流行の指標となる1.00人を上回った。その後2023年第6週（2/6～2/12）に定点あたり12.94人となり，流行のピークを迎えた。以降，報告数は若干の増減はあるものの減少傾向となり，第33週（8/14～8/20）には定点あたり1.02人まで減少したが，1.00人を下回ることなく34週（8/21～8/27）には増加に転じ，次シーズンを迎えた。

2022/23年シーズンに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは30株であった。その内訳は，AH3亜型の25株（83.3％）が最も多く，次いでAH1pdm09型が4株（13.3%），A型亜型不明が1株（3.3%）であった。2022/23年シーズンは，AH3亜型がシーズン

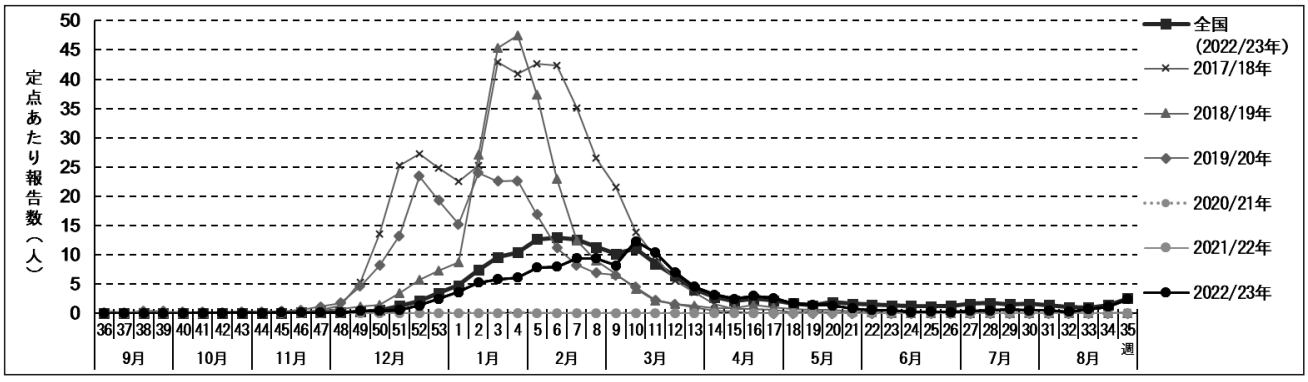

図２７　インフルエンザ　発生状況

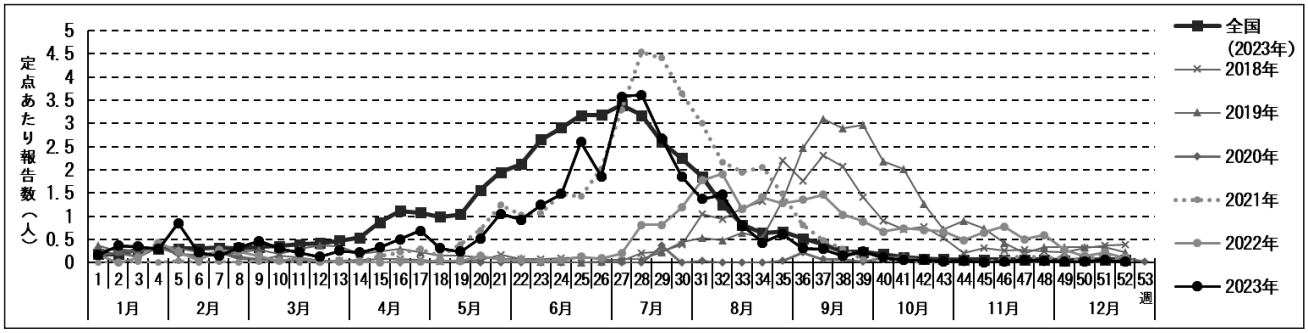

図２８　ＲＳウイルス感染症　発生状況

を通して主流となった。全国で2022/23年シーズンに検出されたインフルエンザウイルスは3,968株であり，AH3亜型が3,618株，次いでAH1pdm09型が217株，B型（ビクトリア系統）が88株，C型が26株，A型亜型不明が16株，B型系統不明が3株であった[3)]。

ⅱ）RSウイルス感染症（図28）

RSウイルス感染症は，定点あたり累積報告数が33.96人であり，前年（24.44人）から増加した。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行前は，当該感染症の流行のピークは，例年9月中旬頃（第37週頃）であったが，2021年は7月（第28週），2022年は8月（第32週），2023年は7月（第28週）と例年とは異なっていた。全国でも同様に，流行のピークは7月であった。年齢階級別では2歳以下の割合が全体の82.6％を占めた（図29）。

ⅲ）咽頭結膜熱（図30）

咽頭結膜熱は，定点あたり累積報告数が38.98人であり，前年（5.89人）から大きく増加した。例年とは異なり，9月下旬（第39週）頃から増加傾向が継続し，11月には例年を大きく上回るピークを迎え（第47週，3.13人），年末まで定点あたり2.50人以上で推移した。年間を通した流行の推移は，全国と同様の傾向であった。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の87.6％を占めた。

ⅳ）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（図31）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は，定点あたり累積報告数が38.24人であり，前年（6.44人）から大きく増加した。8月上旬（第31週）頃から増加傾向が継続し，12月の第52週には2.37人に達し，年末まで高いレベルで推移した。年間を通した流行の推移は，全国と同様の傾向であった。年齢階級別では，6歳以下の乳幼児の割合が全体の58.3％を占めた。

ⅴ）感染性胃腸炎（図32）

感染性胃腸炎は，2023年1月にピークがあったが（第3週，9.80人），その他はほぼ横ばいで推移した。年間を通した流行の推移は，全国と同様の傾向であった。年齢

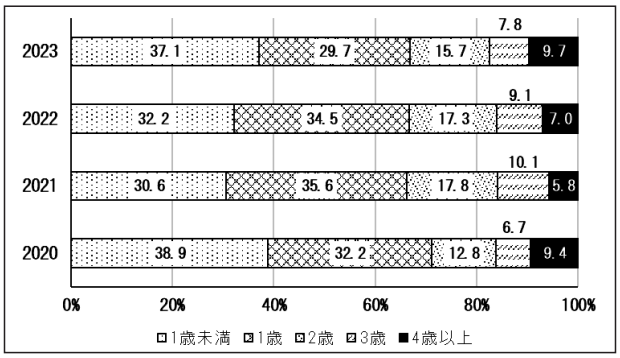

図２９　RSウイルス感染症　年齢階級別割合の推移

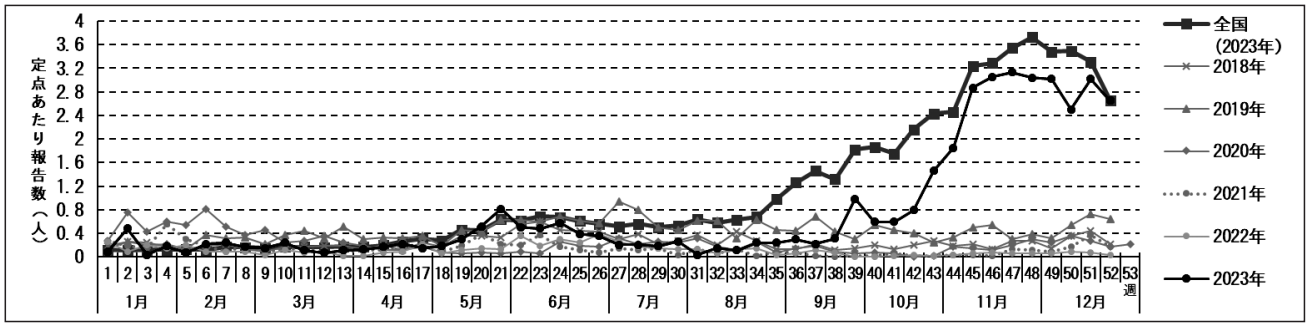

図３０　咽頭結膜熱　発生状況

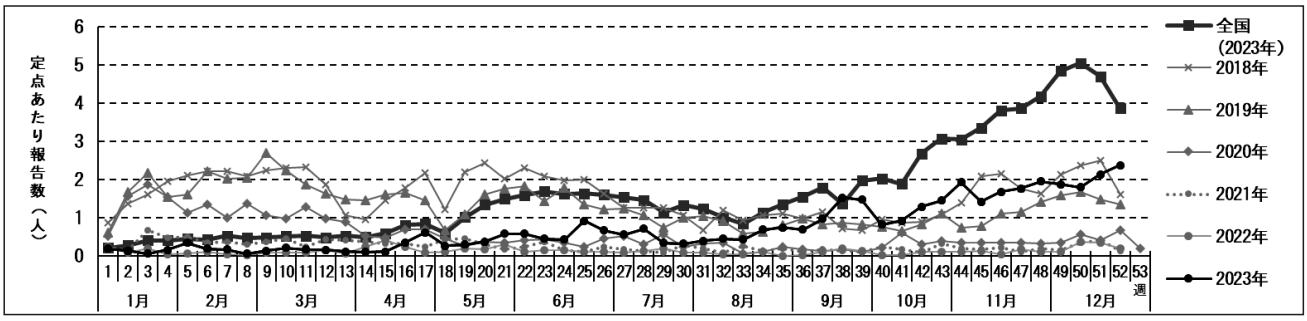

図３１　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　発生状況

階級別では，6歳以下の乳幼児の割合が全体の71.3 %を占めた。

vi）水痘（図33）

水痘は，定点あたり累積報告数が4.19人であり，前年（3.61人）から増加した。年間を通した流行の推移は，全国と同様の傾向であった。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の51.8 %を占めた。

vii）手足口病（図34）

手足口病は，定点あたり累積報告数が49.24人であり，前年（21.30人）から大きく増加した。例年流行のピークは夏季（6月～7月）に見られていたが，新型コロナウイルス感染症流行後は，年間を通して低いレベルで推移した。しかし，2023年は7月にピークが見られ（第29週，3.96人），例年の流行と同様の時期にピークが見られたが，例年と比較して低いレベルであった。年間を通した流行の推移は，6月～8月にかけて全国よりも高いレベルで推移した。年齢階級別では1歳以下の割合が全体の48.4 %を占めた。全国の手足口病患者から検出されたウイルスは，エンテロウイルス71，次いでコクサッキーウイルスA6の順に多く検出された[4)]。

viii）伝染性紅斑（図35）

伝染性紅斑は，定点あたり累積報告数が0.59人であり，前年（0.69人）から減少した。流行は，年間を通して低いレベルで推移し，全国と同様の傾向であった。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の78.1 %を占めた。

ix）突発性発しん（図36）

突発性発しんは，定点あたり累積報告数が11.24人であり，前年（14.11人）から減少した。年間を通した流行の推移は，全国と同様の傾向であった。年齢階級別では1歳以下の割合が全体の79.7 %を占めた。

x）ヘルパンギーナ（図37）

ヘルパンギーナは，定点あたり累積報告数が39.26人であり，前年（5.44人）から大きく増加した。岡山県では6月に流行のピーク（第25週，4.24人）があった。年間を通した流行の推移は，全国と同様の傾向であった。年齢階級別では1歳以下（33.0 %）が最も多く，5歳以

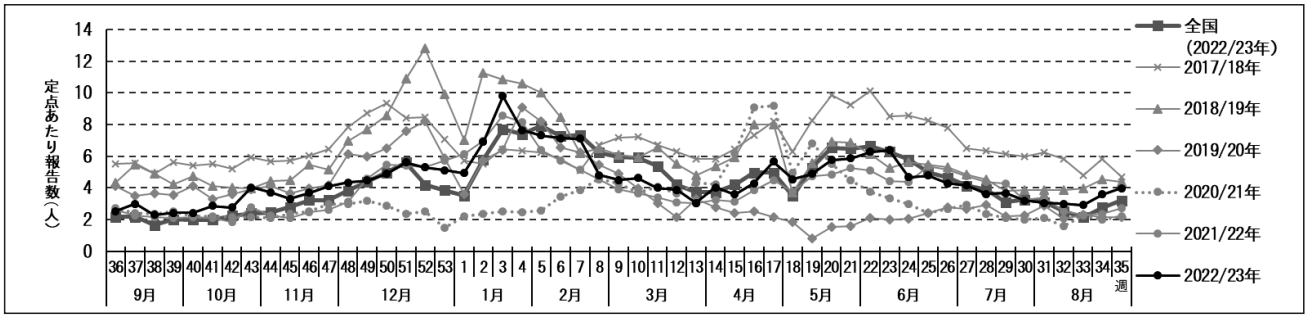

図３２　感染性胃腸炎　発生状況

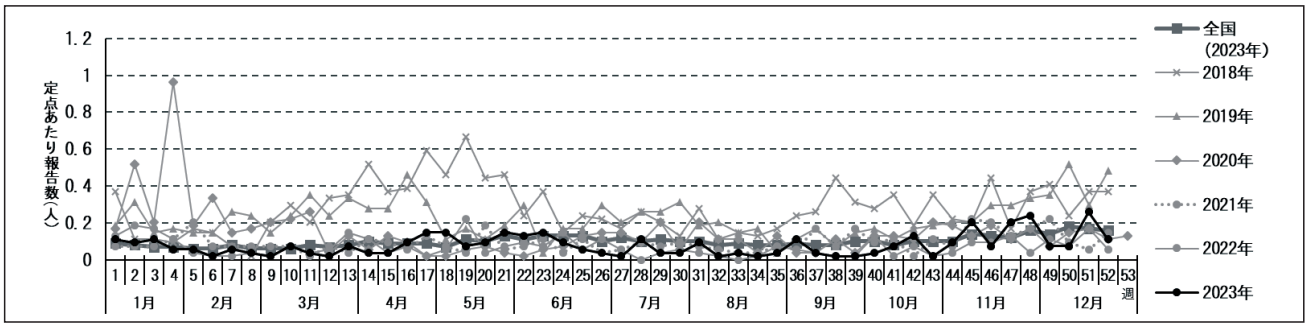

図３３　水痘　発生状況

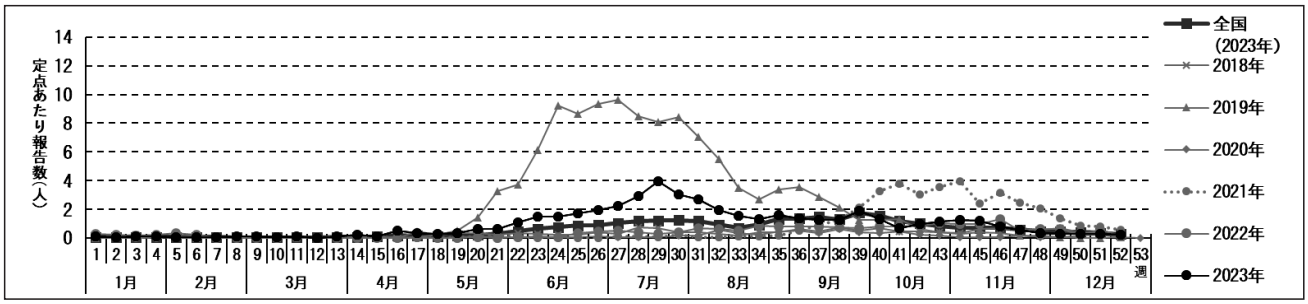

図３４　手足口病　発生状況

下で全体の88.9 %を占めていた。全国のヘルパンギーナの患者から検出されたウイルスは，コクサッキーウイルスA2，次いでコクサッキーウイルスA4の順に多く検出された[4)]。

xi）流行性耳下腺炎（図38）

流行性耳下腺炎は，定点あたり累積報告数が2.65人であり，前年（2.24人）から増加した。流行は年間を通して低いレベルで推移し，全国と同様の傾向であった。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の58.0 %を占めた。

2.2.2 眼科定点における週報告の感染症（表4）

ⅰ）急性出血性結膜炎

急性出血性結膜炎は，定点あたり累積報告数が0.83人であり，前年（0.42人）から増加した。

ⅱ）流行性角結膜炎（図39）

流行性角結膜炎は，定点あたり累積報告数が20.17人であり，前年（4.75人）から大きく増加した。岡山県では9月頃から増加傾向が見られた。全国では4月頃から年末に向けて増加傾向が継続した。年齢階級別では，30歳代（26.0%），10歳未満（23.6%）及び20歳代（15.3%）

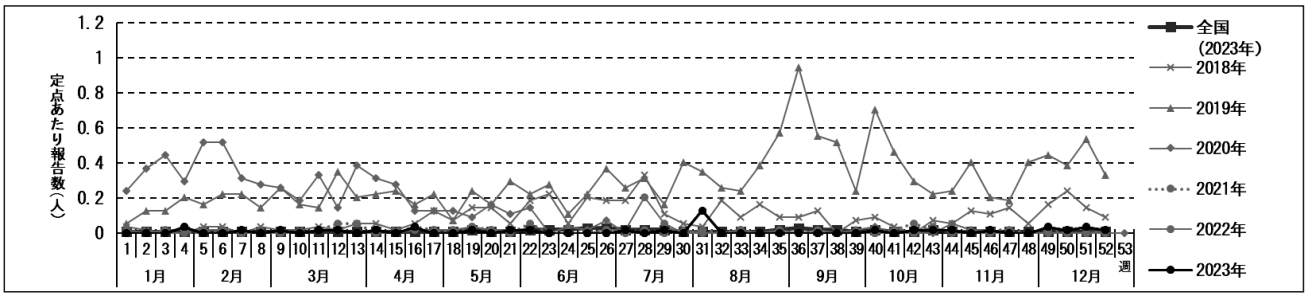

図３５　伝染性紅斑　発生状況

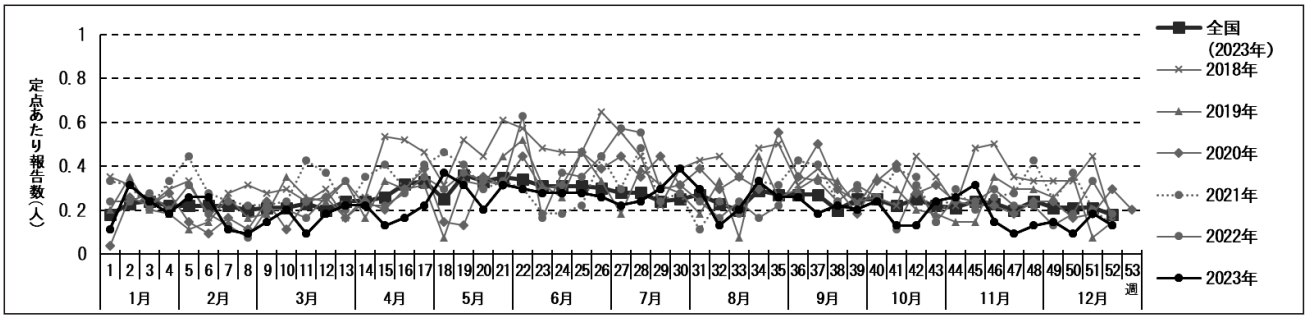

図３６　突発性発しん　発生状況

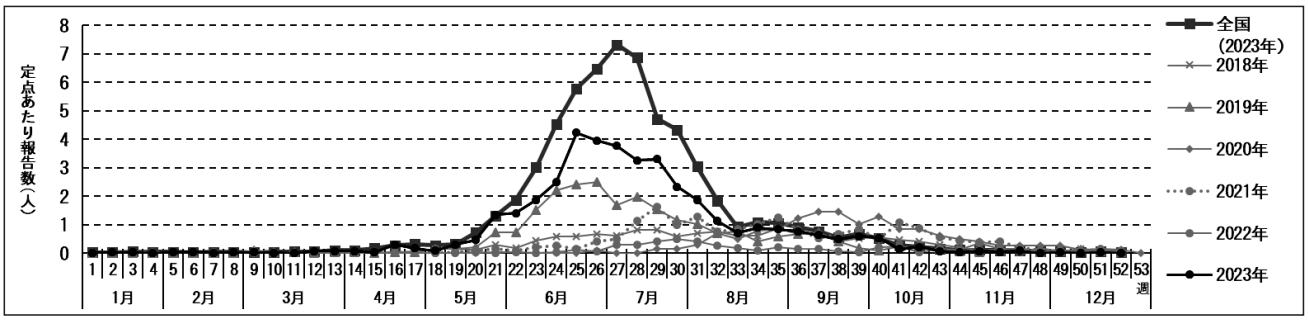

図３７　ヘルパンギーナ　発生状況

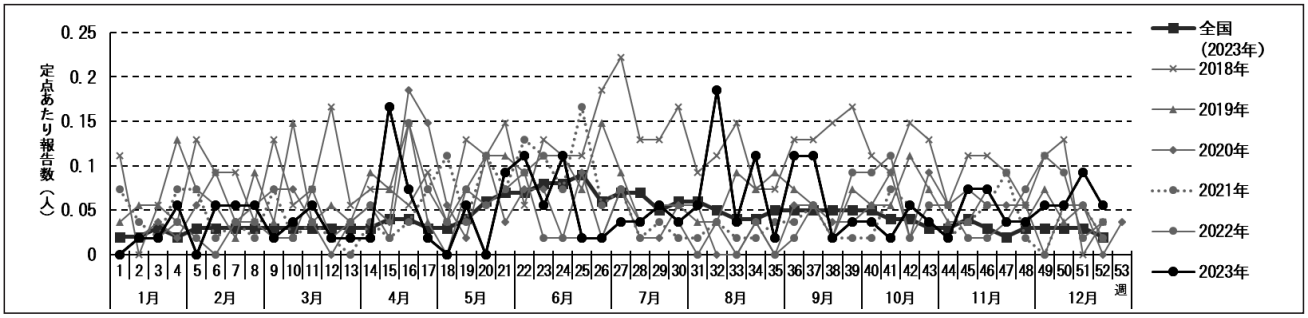

図３８　流行性耳下腺炎　発生状況

で多く報告された。

2.2.3　基幹定点における週報告の感染症（表4）

ⅰ）細菌性髄膜炎（髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）

細菌性髄膜炎は，定点あたり累積報告数が0.80人であり，前年（1.80人）から減少した。

ⅱ）無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎は，定点あたり累積報告数が4.60人であり，前年（0.60人）から大きく増加した。

ⅲ）マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は，定点あたり累積報告数が0.60人であり，前年（0.80人）から減少した。

ⅳ）クラミジア肺炎（オウム病を除く。）

クラミジア肺炎（オウム病を除く。）は，定点あたり累積報告数が0人であり，前年（0人）と同数であった。

ⅴ）感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）

感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）は，定点あたり累積報告数が0.60人であり，前年（0人）から増加した。

2.2.4　性感染症定点における月報告の感染症（表6，7）

ⅰ）性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は，定点あたり累積報告数が21.88人であり，前年（23.06人）とほぼ同数で，前年と同様，全国と比較して少ない報告数であった（図40）。性別では男性が9.7 %，女性が90.3 %で，女性の割合が高かった。年齢階級別では20歳代が最も多かった（図41）。

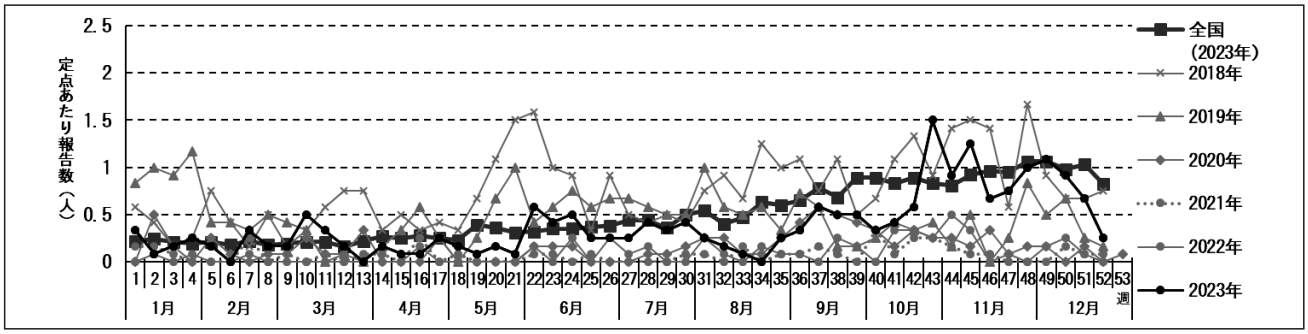

図３９　流行性角結膜炎　発生状況

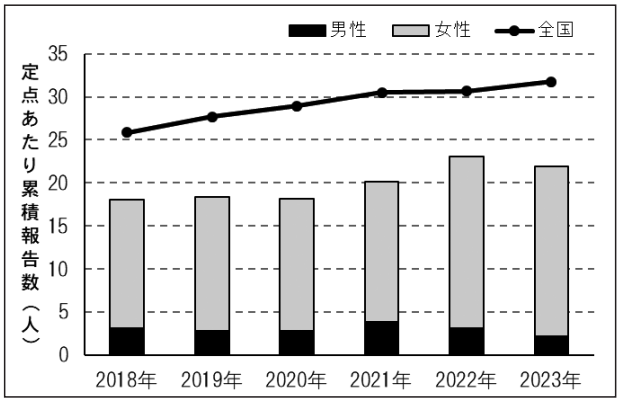

図４０　性器クラミジア感染症　年次別発生状況

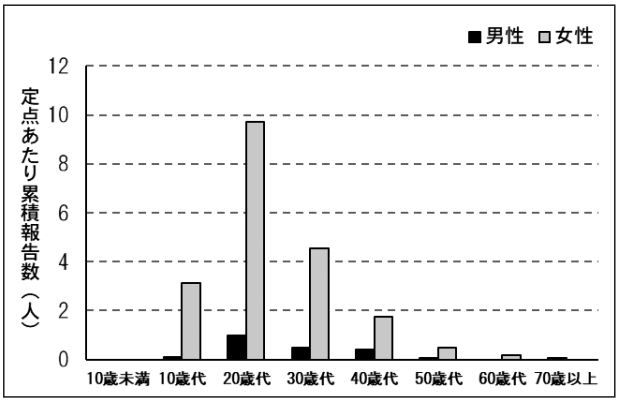

図４１　性器クラミジア感染症　年齢階級別発生状況

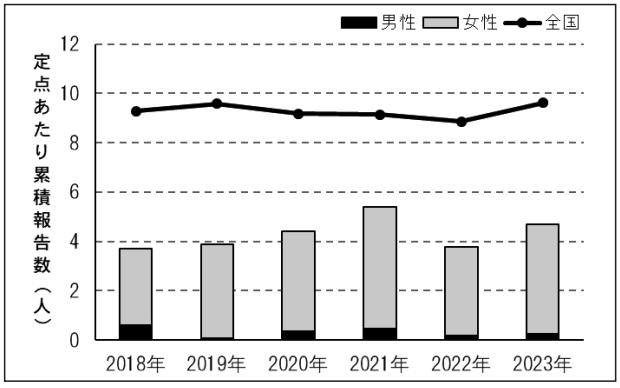

図４２　性器ヘルペスウイルス感染症　年次別発生状況

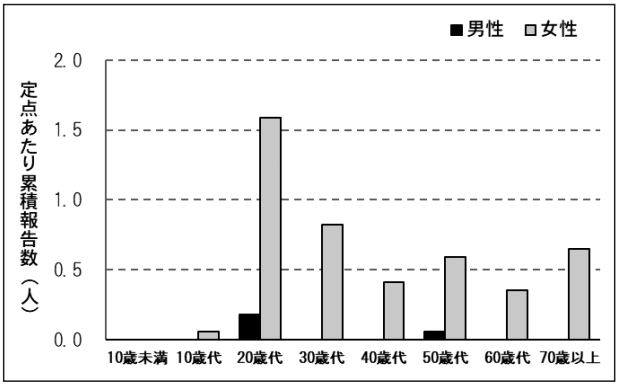

図４３　性器ヘルペスウイルス感染症　年齢階級別発生状況

ⅱ）性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症は，定点あたり累積報告数が4.71人で，前年（3.76人）から増加した。前年と同様，全国と比較して少ない報告数であった（図42）。性別では男性が5.0 %，女性が95.0 %で，女性の割合が高かった。年齢階級別では20歳代が最も多かった（図43）。

ⅲ）尖圭コンジローマ感染症

尖圭コンジローマ感染症は，定点あたり累積報告数が3.29人で，前年（2.29人）から増加した。前年と同様，全国と比較して少ない報告数であった（図44）。性別では男性が32.1 %，女性が67.9 %で，女性の割合が高かった。年齢階級別では，20歳代が最も多かった（図45）。

ⅳ）淋菌感染症

淋菌感染症は，定点あたり累積報告数が6.18人であり，前年（5.82人）とほぼ同数であった。前年と同様，全国と比較して少ない報告数であった（図46）。性別は男性が26.7 %，女性が73.3 %で，女性の割合が高かった。年齢階級別では，20歳代が最も多かった（図47）。

2.2.5　基幹定点における月報告の感染症（表6，8）

ⅰ）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は，定点あたり累積報告数が15.40人であり，前年（20.40人）から減少した。年齢階級別では50歳代以上が90.9 %を占めていた。

ⅱ）ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は，定点あたり累積報告数が1.80人であり，前年（0.40人）から大きく増加した。

ⅲ）薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は，定点あたり累積報告数が0.20人であり，前年（0.40人）から減少した。

3　まとめ

全数把握感染症のうち，日本紅斑熱は，13例の届出があり，県内初の届出があった2009年以降で最多の届出数となった。また，梅毒の届出数は316例であり，感染症法が施行された1999年以降で最多の2022年（197例）を超える届出数となった。岡山県は人口100万人あたり報告数が，2023年は4位（2022年は全国8位）であり，全国の上位を継続している。

定点把握感染症のうち，咽頭結膜熱は，例年とは異なる9月下旬から増加傾向となり，11月に例年のピークを大きく上回るピークが見られ，年末まで高いレベルで推移した。また，A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は，8月上旬から増加傾向が年末まで継続し，年末まで高いレベルで推移した。

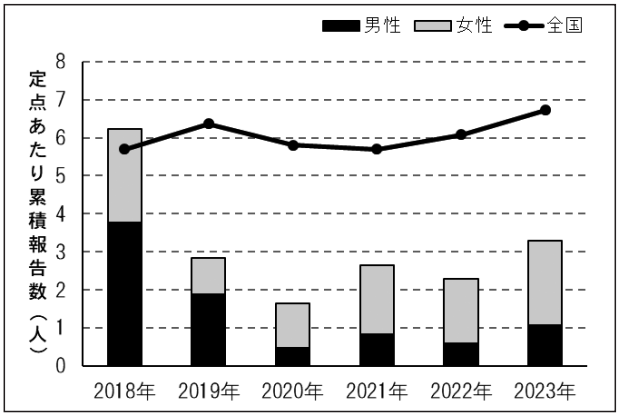

図４４　尖圭コンジローマ感染症　年次別発生状況

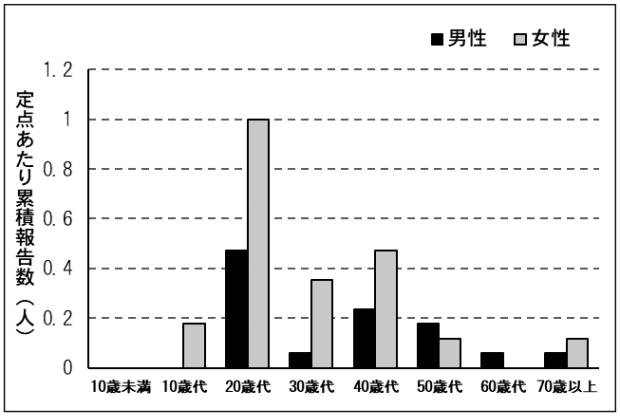

図４５　尖圭コンジローマ感染症　年齢階級別発生状況

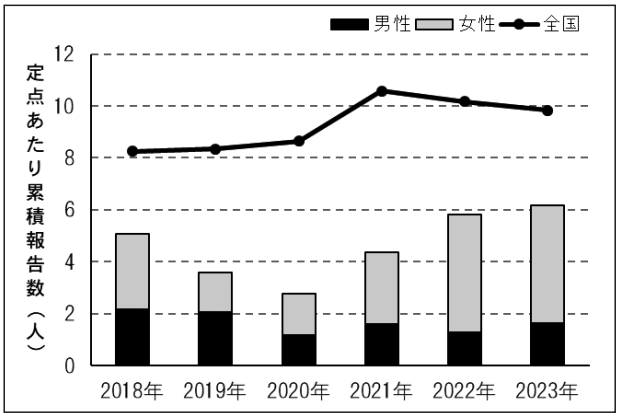

図４６　淋菌感染症　年次別発生状況

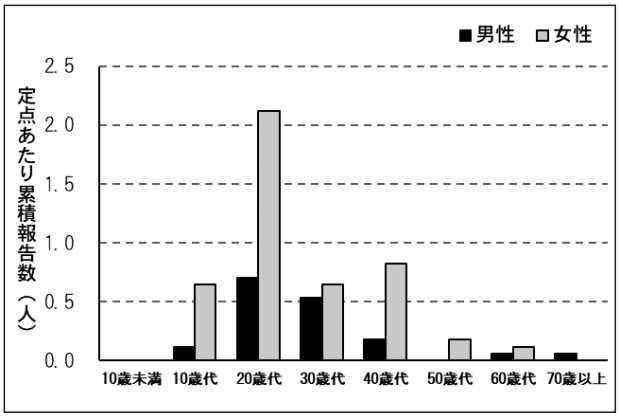

図４７　淋菌感染症　年齢階級別発生状況

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行後，感染防止対策の徹底や，外出自粛等の社会活動の変化で飛沫・接触感染が感染経路の中心である感染症は流行がある程度抑制されていたが，5類定点への移行が行われた2023年は，一部の感染症において報告数が2022年より大きく増加しているものがあった。また，RSウイルス感染症の発生状況は，2020年～2022年と同様に，新型コロナウイルス感染症流行前と異なっていた。一方で手足口病の発生状況は2020年～2022年とは異なり流行前と同様であった。

ダニ媒介感染症や，梅毒を始めとする性的接触が感染経路の中心である性感染症は，社会生活の変化の影響も受けにくく，感染拡大防止に係るアプローチを要するものと考えられる。

岡山県感染症情報センターでは，今後も引き続き，県内の感染症情報の収集・分析を迅速に行い，全国の感染症発生動向にも注意を払いながら，感染症対策の一助となるよう広く情報発信をしていきたい。

文　献

1） 厚生労働省：結核登録者情報調査年報集計結果について，
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00011.html（2024.12.20 アクセス）

2） 国立感染症研究所：AIDS（後天性免疫不全症候群）とは，
https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html（2024.12.20 アクセス）

3） 国立感染症研究所：インフルエンザウイルス分離・検出速報，
https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html（2024.12.24 アクセス）

4） 国立感染症研究所：病原微生物検出情報，
https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html（2024.12.27 アクセス）

表１　感染症法に基づく届出対象感染症（2023年）

1. 全数把握感染症：全ての医師が，全ての患者発生について届出を行う感染症

【 一類感染症 】 直ちに届出

(1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱 (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱

【 二類感染症 】 直ちに届出

(1) 急性灰白髄炎 (2) 結核 (3) ジフテリア (4) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。) (5) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。） (6) 鳥インフルエンザ(H5N1) (7) 鳥インフルエンザ(H7N9)

【 三類感染症 】 直ちに届出

(1) コレラ (2) 細菌性赤痢 (3) 腸管出血性大腸菌感染症 (4) 腸チフス (5) パラチフス

【 四類感染症 】 直ちに届出

(1) E型肝炎 (2) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎含む） (3) A型肝炎 (4) エキノコックス症 (5) エムポックス (6) 黄熱 (7) オウム病 (8) オムスク出血熱 (9) 回帰熱 (10) キャサヌル森林病 (11) Q熱 (12) 狂犬病 (13) コクシジオイデス症 (14) ジカウイルス感染症 (15) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。) (16) 腎症候性出血熱 (17) 西部ウマ脳炎 (18) ダニ媒介脳炎 (19) 炭疽 (20) チクングニア熱 (21) つつが虫病 (22) デング熱 (23) 東部ウマ脳炎 (24) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。) (25) ニパウイルス感染症 (26) 日本紅斑熱 (27) 日本脳炎 (28) ハンタウイルス肺症候群 (29) Bウイルス病 (30) 鼻疽 (31) ブルセラ症 (32) ベネズエラウマ脳炎 (33) ヘンドラウイルス感染症 (34) 発しんチフス (35) ボツリヌス症 (36) マラリア (37) 野兎病 (38) ライム病 (39) リッサウイルス感染症 (40) リフトバレー熱 (41) 類鼻疽 (42) レジオネラ症 (43) レプトスピラ症 (44) ロッキー山紅斑熱

注) (5) エムポックスは「サル痘」から令和5年（2023年）5月26日付けで名称変更。

【 五類感染症の一部 】 7日以内に届出（侵襲性髄膜炎菌感染症，風しんおよび麻しんは直ちに届出）

(1) アメーバ赤痢 (2) ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。） (3) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 (4) 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。） (5) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎，西部ウマ脳炎，ダニ媒介脳炎，東部ウマ脳炎，日本脳炎，ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。） (6) クリプトスポリジウム症 (7) クロイツフェルト・ヤコブ病 (8) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (9) 後天性免疫不全症候群 (10) ジアルジア症 (11) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (12) 侵襲性髄膜炎菌感染症 (13) 侵襲性肺炎球菌感染症 (14) 水痘（入院例に限る。） (15) 先天性風しん症候群 (16) 梅毒 (17) 播種性クリプトコックス症 (18) 破傷風 (19) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (20) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (21) 百日咳 (22) 風しん (23) 麻しん (24) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

注) (3) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」から令和5年（2023年）5月26日付けで名称変更。

【 新型インフルエンザ等感染症 】 直ちに届出

新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）

注) 令和3年（2021年）2月13日から施行。それ以前は「指定感染症」。令和5年（2023年）5月8日から定点把握感染症（五類感染症）へ変更。

2. 定点把握感染症（五類感染症）：指定した医療機関が，患者の発生について届出を行う感染症

①週単位報告

【 小児科定点 】

(1) RSウイルス感染症 (2) 咽頭結膜熱 (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (4) 感染性胃腸炎 (5) 水痘 (6) 手足口病 (7) 伝染性紅斑 (8) 突発性発しん (9) ヘルパンギーナ (10) 流行性耳下腺炎

【 インフルエンザ定点 】

(1) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）

【 眼科定点 】

(1) 急性出血性結膜炎 (2) 流行性角結膜炎

【 基幹定点 】

(1) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。） (2) クラミジア肺炎（オウム病を除く） (3) 細菌性髄膜炎（髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。） (4) マイコプラズマ肺炎 (5) 無菌性髄膜炎

②月単位報告

【 性感染症定点 】

(1) 性器クラミジア感染症 (2) 性器ヘルペスウイルス感染症 (3) 尖圭コンジローマ (4) 淋菌感染症

【 基幹定点 】

(1) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (3) 薬剤耐性緑膿菌感染症

表２　全数把握感染症　月別患者発生状況

2023年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一類感染症	エボラ出血熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	クリミア・コンゴ出血熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	痘そう	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	南米出血熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ペスト	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	マールブルグ病	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ラッサ熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
二類感染症	急性灰白髄炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	結核	211	20	21	16	13	23	19	20	13	14	17	18	17
	ジフテリア	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	重症急性呼吸器症候群	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	中東呼吸器症候群	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	鳥インフルエンザ（H5N1）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	鳥インフルエンザ（H7N9）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
三類感染症	コレラ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	細菌性赤痢	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
	腸管出血性大腸菌感染症	104	2	1	4	1	5	16	14	24	13	13	6	5
	腸チフス	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	パラチフス	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
四類感染症	E型肝炎	2	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
	ウエストナイル熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	A型肝炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	エキノコックス症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	エムポックス	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
	黄熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	オウム病	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	オムスク出血熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	回帰熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	キャサヌル森林病	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	Q熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	狂犬病	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	コクシジオイデス症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ジカウイルス感染症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	重症熱性血小板減少症候群	4	−	−	−	1	1	1	−	−	−	1	−	−
	腎症候性出血熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	西部ウマ脳炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ダニ媒介脳炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	炭疽	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	チクングニア熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	つつが虫病	4	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	2	1
	デング熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	東部ウマ脳炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ(H5N1)を除く）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ニパウイルス感染症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	日本紅斑熱	13	−	−	−	1	−	1	−	6	1	4	−	−
	日本脳炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ハンタウイルス肺症候群	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	Bウイルス病	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	鼻疽	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ブルセラ症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ベネズエラウマ脳炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ヘンドラウイルス感染症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	発しんチフス	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ボツリヌス症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	マラリア	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	野兎病	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ライム病	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	リッサウイルス感染症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	リフトバレー熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	類鼻疽	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	レジオネラ症	50	4	−	2	6	4	7	7	2	7	5	3	3
	レプトスピラ症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	ロッキー山紅斑熱	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
五類感染症	アメーバ赤痢	11	−	1	2	1	1	1	1	−	1	−	−	3
	ウイルス性肝炎（E・Aを除く）	4	1	1	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	28	1	−	4	1	2	2	1	4	2	4	3	4
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	1	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
	急性脳炎※	11	1	1	2	−	−	2	−	−	1	2	1	1
	クリプトスポリジウム症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	クロイツフェルト・ヤコブ病	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	1	−	2	−	−	−	−	1	−	1	2	3
	後天性免疫不全症候群	5	−	−	−	−	2	−	−	1	−	−	2	−
	ジアルジア症	1	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	10	2	−	−	2	−	1	1	1	−	−	2	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	侵襲性肺炎球菌感染症	35	−	1	2	2	1	6	2	5	−	4	5	7
	水痘（入院例）	5	−	1	1	1	1	1	−	−	−	−	−	−
	先天性風しん症候群	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	梅毒	316	16	18	24	19	27	33	30	28	32	16	31	42
	播種性クリプトコックス症	2	−	−	−	−	−	−	−	1	1	−	−	−
	破傷風	4	−	−	−	−	−	−	1	1	−	1	−	1
	バンコマイシン耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌感染症	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	−	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−
	百日咳	22	2	4	3	2	2	2	1	2	2	1	−	1
	風しん	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	麻しん	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	2	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−

＊ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表３　全数把握感染症　年齢別患者発生状況

2023年

		総数	0～9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳～
一類感染症	エボラ出血熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	痘そう	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ペスト	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	マールブルグ病	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
二類感染症	急性灰白髄炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	結核	211	7	－	26	13	5	17	14	49	53	27
	ジフテリア	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	中東呼吸器症候群	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ（H5N1）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ（H7N9）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
三類感染症	コレラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	細菌性赤痢	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
	腸管出血性大腸菌感染症	104	13	17	22	9	15	6	4	7	9	2
	腸チフス	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
	パラチフス	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
四類感染症	E型肝炎	2	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－
	ウエストナイル熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	A型肝炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	エキノコックス症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	エムポックス	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
	黄熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	オウム病	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	回帰熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	キャサヌル森林病	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	Q熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	狂犬病	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	クシジオイデス症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ジカウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	重症熱性血小板減少症候群	4	－	－	－	1	－	－	－	1	2	－
	腎症候性出血熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ダニ媒介脳炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	炭疽	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	つつが虫病	4	－	－	－	－	1	－	－	1	2	－
	デング熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	東部ウマ脳炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ(H5N1)を除く）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	日本紅斑熱	13	－	－	－	1	－	1	2	6	2	1
	日本脳炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	鼻疽	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	マラリア	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	野兎病	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ライム病	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	リッサウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	レジオネラ症	50	－	－	－	－	4	3	11	11	14	7
	レプトスピラ症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
五類感染症	アメーバ赤痢	11	－	－	－	1	3	4	3	－	－	－
	ウイルス性肝炎（E・Aを除く）	4	－	1	－	－	1	1	－	1	－	－
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	28	2	－	－	－	1	3	4	11	7	－
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	急性脳炎*	11	10	1	－	－	－	－	－	－	－	－
	クリプトスポリジウム症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	－	－	－	1	－	1	2	4	－	2
	後天性免疫不全症候群	5	－	－	2	1	1	－	1	－	－	－
	ジアルジア症	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	10	1	1	－	1	1	－	1	3	1	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	侵襲性肺炎球菌感染症	35	7	1	－	4	－	2	5	8	8	－
	水痘（入院例）	5	－	1	－	－	－	－	－	2	2	－
	先天性風しん症候群	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	梅毒	316	－	9	119	58	60	45	18	6	1	－
	播種性クリプトコックス症	2	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1
	破傷風	4	－	－	－	－	－	－	－	2	1	1
	バンコマイシン耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－
	百日咳	22	4	2	4	3	7	－	1	－	1	－
	風しん	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	麻しん	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	2	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1

＊ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表４　定点把握対象感染症の発生状況

2023年

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）
総数	393.33	33.96	38.98	38.24	240.13	4.19	49.24	0.59	11.24	39.26	2.65	0.83	20.17	0.80	4.60	0.60	0.00	0.60
1週	3.65	0.17	0.09	0.19	4.93	0.11	0.15	—	0.11	0.02	—	0.08	0.33	—	0.20	—	—	—
2週	5.26	0.37	0.48	0.13	6.91	0.09	0.06	—	0.31	0.04	0.02	—	0.08	0.20	—	—	—	—
3週	5.83	0.35	0.04	0.06	9.80	0.11	0.13	—	0.24	0.04	0.02	0.08	0.17	—	0.20	—	—	—
4週	6.13	0.30	0.19	0.15	7.65	0.06	0.11	0.04	0.19	—	0.06	—	0.25	—	0.20	—	—	—
5週	7.82	0.85	0.07	0.33	7.31	0.06	0.06	—	0.26	0.04	—	—	0.17	0.20	—	—	—	—
6週	7.98	0.22	0.22	0.19	7.13	0.02	0.09	—	0.26	0.06	0.06	—	—	—	—	—	—	—
7週	9.39	0.15	0.24	0.17	7.11	0.06	0.07	0.02	0.11	0.02	0.06	0.08	0.33	—	—	—	—	—
8週	9.37	0.33	0.17	0.06	4.81	0.04	0.13	—	0.09	0.04	0.06	—	0.17	—	—	—	—	0.60
9週	8.21	0.46	0.15	0.13	4.48	0.02	0.13	0.02	0.15	0.04	0.02	—	0.17	—	0.40	—	—	—
10週	12.35	0.31	0.24	0.20	4.63	0.07	0.07	—	0.20	0.02	0.04	—	0.50	—	—	—	—	—
11週	10.37	0.22	0.11	0.17	4.00	0.04	0.13	0.02	0.09	—	0.06	—	0.33	—	—	0.20	—	—
12週	7.01	0.13	0.07	0.15	3.87	0.02	0.04	0.02	0.19	0.07	0.02	—	0.17	—	0.20	—	—	—
13週	4.58	0.26	0.11	0.11	3.06	0.07	0.11	—	0.22	0.07	0.02	—	—	—	—	—	—	—
14週	3.21	0.22	0.13	0.09	4.04	0.04	0.22	0.02	0.22	0.07	0.02	0.08	0.17	—	—	—	—	—
15週	2.46	0.33	0.17	0.11	3.57	0.04	0.13	—	0.13	0.04	0.17	0.08	0.08	—	—	—	—	—
16週	2.95	0.50	0.22	0.35	4.28	0.09	0.52	0.04	0.17	0.31	0.07	—	0.08	—	—	—	—	—
17週	2.60	0.69	0.15	0.61	5.67	0.15	0.39	—	0.22	0.19	0.02	—	0.25	—	—	—	—	—
18週	1.73	0.31	0.19	0.26	4.56	0.15	0.33	—	0.37	0.09	—	—	0.17	—	0.40	—	—	—
19週	1.49	0.24	0.30	0.30	4.89	0.07	0.39	0.02	0.31	0.31	0.06	—	0.08	—	—	—	—	—
20週	1.35	0.52	0.52	0.37	5.76	0.09	0.67	—	0.20	0.46	—	—	0.17	—	0.20	—	—	—
21週	0.87	1.06	0.81	0.57	5.87	0.15	0.65	0.02	0.31	1.35	0.09	—	0.08	—	0.40	—	—	—
22週	0.57	0.93	0.50	0.57	6.28	0.13	1.11	0.02	0.30	1.41	0.11	—	0.58	—	—	—	—	—
23週	0.48	1.24	0.48	0.44	6.37	0.15	1.52	—	0.28	1.87	0.06	—	0.42	—	0.40	—	—	—
24週	0.18	1.48	0.57	0.43	4.69	0.09	1.48	—	0.28	2.50	0.11	—	0.50	—	—	—	—	—
25週	0.26	2.59	0.39	0.91	4.78	0.06	1.72	—	0.28	4.24	0.02	—	0.25	—	—	—	—	—
26週	0.19	1.85	0.35	0.67	4.28	0.04	1.98	—	0.26	3.96	0.02	—	0.25	—	0.40	—	—	—
27週	0.43	3.57	0.20	0.56	4.15	0.02	2.28	0.02	0.22	3.78	0.04	—	0.25	—	0.20	—	—	—
28週	0.46	3.61	0.20	0.70	3.61	0.11	2.94	—	0.24	3.26	0.04	0.08	0.42	—	—	—	—	—
29週	0.70	2.67	0.19	0.33	3.67	0.04	3.96	0.02	0.30	3.31	0.06	—	0.33	—	—	—	—	—
30週	0.50	1.85	0.26	0.31	3.20	0.04	3.04	—	0.39	2.33	0.04	—	0.42	—	—	—	—	—
31週	0.46	1.37	0.04	0.39	3.04	0.09	2.69	0.13	0.30	1.87	0.06	—	0.25	—	—	—	—	—
32週	0.27	1.46	0.15	0.44	3.00	0.02	1.98	—	0.13	1.13	0.19	—	0.17	—	0.20	—	—	—
33週	0.69	0.80	0.11	0.43	2.91	0.04	1.59	—	0.20	0.72	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
34週	1.11	0.43	0.24	0.69	3.59	0.02	1.33	—	0.33	0.91	0.11	0.08	—	—	—	—	—	—
35週	2.38	0.61	0.24	0.74	3.96	0.04	1.61	—	0.26	0.85	0.02	—	0.25	—	—	—	—	—
36週	4.30	0.31	0.30	0.69	3.83	0.11	1.39	—	0.26	0.78	0.11	—	0.33	—	0.20	—	—	—
37週	4.30	0.30	0.22	0.96	3.48	0.04	1.26	—	0.19	0.65	0.11	—	0.58	—	—	—	—	—
38週	4.94	0.15	0.31	1.52	3.06	0.02	1.26	—	0.22	0.50	0.02	—	0.50	—	—	—	—	—
39週	5.50	0.24	0.98	1.46	3.94	0.02	1.93	—	0.20	0.59	0.04	—	0.50	—	—	—	—	—
40週	5.63	0.11	0.59	0.81	3.48	0.04	1.35	0.02	0.24	0.54	0.04	—	0.33	—	0.60	—	—	—
41週	6.35	0.06	0.59	0.91	2.76	0.07	0.69	—	0.13	0.15	0.02	0.08	0.42	—	—	—	—	—
42週	9.71	0.06	0.80	1.28	2.87	0.13	0.98	0.02	0.13	0.22	0.06	—	0.58	—	—	—	—	—
43週	12.30	0.02	1.46	1.44	3.26	0.02	1.15	0.02	0.24	0.07	0.04	—	1.50	—	0.20	—	—	—
44週	20.04	0.04	1.85	1.93	3.63	0.09	1.26	0.02	0.26	0.04	0.02	—	0.92	—	—	0.20	—	—
45週	19.14	—	2.87	1.41	3.80	0.20	1.22	—	0.31	0.07	0.07	—	1.25	0.40	—	—	—	—
46週	24.46	0.02	3.06	1.67	4.41	0.07	0.81	0.02	0.15	0.06	0.07	—	0.67	—	—	0.20	—	—
47週	31.35	0.06	3.13	1.76	4.70	0.20	0.61	—	0.09	0.09	0.04	—	0.75	—	—	—	—	—
48週	31.55	0.04	3.04	1.94	5.30	0.24	0.35	—	0.13	—	0.04	0.17	1.00	—	—	—	—	—
49週	34.80	0.02	3.02	1.87	5.33	0.07	0.31	0.04	0.15	0.04	0.06	—	1.08	—	—	—	—	—
50週	26.69	0.02	2.50	1.80	5.78	0.07	0.31	0.02	0.09	—	0.06	—	0.92	—	—	—	—	—
51週	14.89	0.06	3.02	2.13	5.00	0.26	0.31	0.04	0.19	0.04	0.09	—	0.67	—	—	—	—	—
52週	14.08	0.02	2.65	2.37	3.67	0.11	0.22	0.02	0.13	—	0.06	—	0.25	—	0.20	—	—	—

表５　週報告　定点把握感染症（小児科定点，インフルエンザ（小児科・内科）定点，眼科定点，基幹定点）年齢階級別患者報告数

2023年

疾患名＼年齢区分																						
	インフル	合計	～6か月	～12か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
	小児科	合計	～6か月	～12か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上						
	眼	合計	～6か月	～12か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
	基	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上				
インフルエンザ	イ	33,040	131	260	865	1,169	1,476	1,857	2,174	2,244	2,147	2,007	1,915	6,880	2,254	1,686	1,907	1,834	990	652	354	238
RSｳｲﾙｽ感染症	小	1,834	343	338	545	288	143	86	40	10	13	6	2	8	2	10						
咽頭結膜熱	小	2,105	22	100	444	373	263	286	204	153	80	38	30	56	13	43						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	小	2,065	6	9	71	116	193	271	257	281	247	177	134	227	19	57						
感染性胃腸炎	小	12,967	126	832	2,187	1,607	1,352	1,217	1,057	793	593	509	401	1,018	202	1,073						
水痘	小	226	6	9	16	15	12	19	20	20	16	21	11	51	6	4						
手足口病	小	2,659	43	229	1,016	577	312	205	124	48	30	29	15	17	1	13						
伝染性紅斑	小	32	－	2	11	1	2	3	3	3	4	－	1	1	－	1						
突発性発しん	小	607	12	139	333	76	26	10	8	1	2	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ	小	2,120	24	142	534	431	329	241	183	102	44	25	15	38	4	8						
流行性耳下腺炎	小	143	－	2	4	9	11	20	25	12	14	10	10	23	1	2						
急性出血性結膜炎	眼	10	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	2	4	1	－	－	
流行性角結膜炎	眼	242	1	2	11	11	4	10	3	6	2	5	2	6	4	37	63	27	23	15	10	
細菌性髄膜炎	基	4	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	2				
無菌性髄膜炎	基	23	9	－	1	－	－	2	1	1	1	－	－	－	1	1	1	5				
マイコプラズマ肺炎	基	3	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－	－				
クラミジア肺炎	基	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	基	3	－	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

表６　月報告　定点把握感染症（性感染症定点，基幹定点）月別，定点あたり報告数

2023年

疾患名			総計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
性感染症定点	性器クラミジア感染症	計	21.88	1.82	2.35	1.53	1.94	2.06	2.12	1.88	1.29	1.94	1.59	1.82	1.53
		男性	2.12	0.18	0.06	0.12	0.35	0.18	0.18	0.18	0.35	0.18	0.06	0.12	0.18
		女性	19.76	1.65	2.29	1.41	1.59	1.88	1.94	1.71	0.94	1.76	1.53	1.71	1.35
	性器ヘルペスウイルス感染症	計	4.71	0.35	0.29	0.29	0.18	0.29	0.65	0.53	0.47	0.35	—	0.76	0.53
		男性	0.24	—	—	—	—	0.06	0.06	—	—	0.06	—	—	0.06
		女性	4.47	0.35	0.29	0.29	0.18	0.24	0.59	0.53	0.47	0.29	—	0.76	0.47
	尖圭コンジローマ	計	3.29	0.18	0.29	0.47	0.24	0.47	0.06	0.35	0.12	0.59	0.24	0.12	0.18
		男性	1.06	—	0.06	0.18	0.18	0.12	—	0.18	—	0.12	0.18	0.06	—
		女性	2.24	0.18	0.24	0.29	0.06	0.35	0.06	0.18	0.12	0.47	0.06	0.06	0.18
	淋菌感染症	計	6.18	0.65	0.53	0.29	0.53	0.47	0.65	0.65	0.59	0.59	0.24	0.65	0.35
		男性	1.65	0.29	—	0.12	0.29	0.18	—	0.12	0.24	0.06	0.12	0.24	—
		女性	4.53	0.35	0.53	0.18	0.24	0.29	0.65	0.53	0.35	0.53	0.12	0.41	0.35
基幹定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	計	15.40	0.80	0.20	0.80	1.00	1.00	1.20	2.40	1.60	1.20	1.60	2.00	1.60
		男性	10.20	0.60	0.20	0.20	0.20	0.80	1.00	1.60	1.20	1.00	1.20	0.80	1.40
		女性	5.20	0.20	—	0.60	0.80	0.20	0.20	0.80	0.40	0.20	0.40	1.20	0.20
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	計	1.80	—	0.20	—	0.20	—	—	0.20	—	0.20	—	—	1.00
		男性	1.00	—	0.20	—	—	—	—	0.20	—	0.20	—	—	0.40
		女性	0.80	—	—	—	0.20	—	—	—	—	—	—	—	0.60
	薬剤耐性緑膿菌感染症	計	0.20	—	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男性	0.20	—	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女性	0.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表７　月報告　定点把握感染症（性感染症定点）年齢階級別患者報告数

2023年

疾患名		0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
性器クラミジア感染症	計	－	－	－	1	54	89	93	62	23	19	18	5	4	3	－	1	372
	男性	－	－	－	－	2	8	9	8	－	4	3	1	－	－	－	1	36
	女性	－	－	－	1	52	81	84	54	23	15	15	4	4	3	－	－	336
性器ヘルペスウイルス感染症	計	－	－	－	－	1	16	14	8	6	2	5	5	6	4	2	11	80
	男性	－	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	1	－	－	－	－	4
	女性	－	－	－	－	1	15	12	8	6	2	5	4	6	4	2	11	76
尖圭コンジローマ	計	－	－	－	－	3	13	12	4	3	5	7	4	1	－	1	3	56
	男性	－	－	－	－	－	5	3	1	－	1	3	2	1	－	1	1	18
	女性	－	－	－	－	3	8	9	3	3	4	4	2	－	－	－	2	38
淋菌感染症	計	－	－	－	1	12	32	16	12	8	10	7	3	－	3	－	1	105
	男性	－	－	－	－	2	8	4	7	2	2	1	－	－	1	－	1	28
	女性	－	－	－	1	10	24	12	5	6	8	6	3	－	2	－	－	77

表８　月報告　定点把握感染症（基幹定点）年齢階級別患者報告数

2023年

疾患名	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	1	1	－	－	－	－	1	－	2	1	－	－	3	5	62	77
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	－	－	－	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	1	1	4	9
薬剤耐性緑膿菌感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1